鹿納谷 沢登 山行報告書

日　程 ： 令和 7 年(2025 年)8 月 2 日

参加者 ： 土橋誠・中山正浩・中野正大・白尾賢子・岡村繁雄 他 2 名

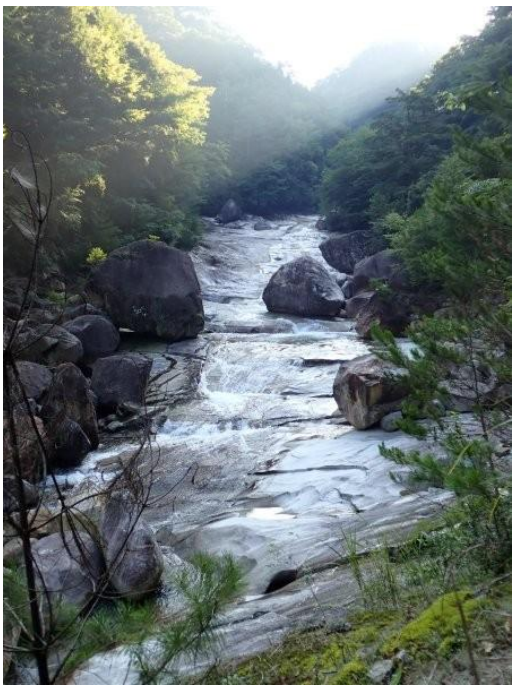
行　程 ： 林道駐車地点 6:43 ⇒ 入渓 7:04 ⇒ 砂防堤下(加納谷分岐)7:08 ⇒ ｽﾗﾌﾞ後ﾎﾞﾙﾄ連打ﾄﾗﾊﾞｰｽ 9:30～11:00 ⇒ 左岸滝通過 11:25 ⇒ 休憩 12:30～13:00 ⇒ 左岸高巻 12:15～13:42 ⇒ 終了点付近水遊び 13:45～14:26 ⇒ 林道 14:35 ⇒ 分岐 14:50 ⇒ 砂防堤下 15:25 ⇒ 入渓地点 15:30 ⇒ 林道駐車地点 15:49

〔ゆっくり遊んで 9 時間〕

下界は連日の猛暑の中、久しぶりの沢登である。
鹿川キャンプ場からの途中にあった奈須商店も数年前に閉店したとのこと。鉾岳のクライミングの際は、いつもお世話になっていたのだが、これで近くに商店が無くなり、食料や酒類は事前に購入して行く必要がある。
鹿納谷は、綱の瀬川本流(西の内川)の支流で、林道の行き止まりまで走らせた。
駐車スペース付近も大雨のためか荒れていて、車を路肩に止めて出発。〔6:43〕

林道(このあたりで車両通行不可)駐車地点出発〔6:43〕

林道が崩壊〔6:54〕



入渓地点付近から
綱の瀬川を望む
〔7:01〕

右 砂防堤　左手支流が鹿納谷〔7:06〕

鹿納谷の入口、橋脚らしいコンクリートの柱がある〔7:11〕

ボルトが１本よいとこに打ってある〔7:41〕

〔8:01〕

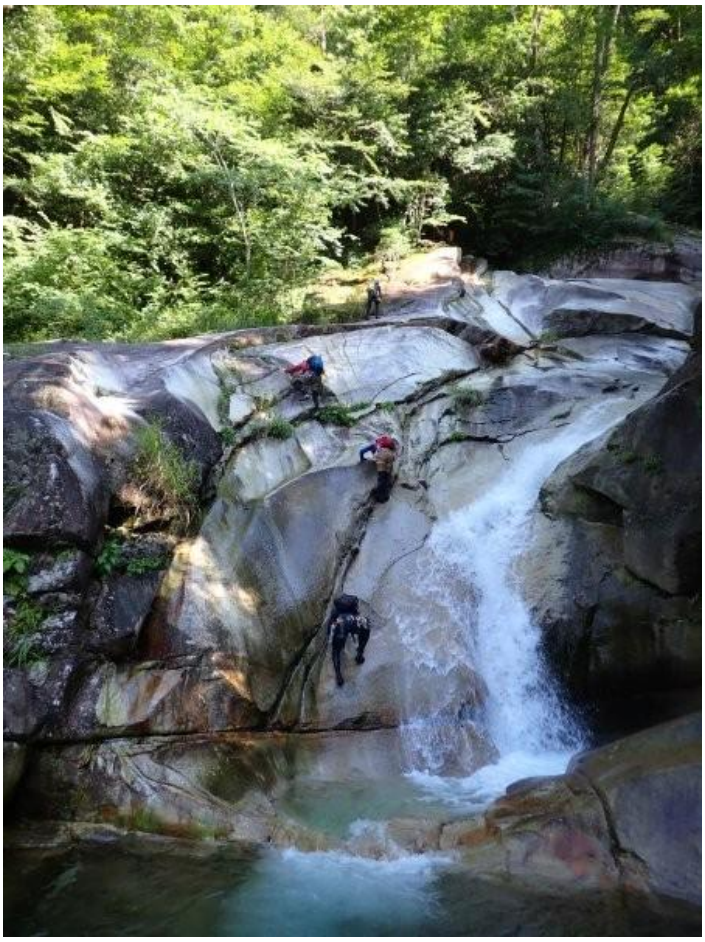
〔8:35〕

フリクションが
きいて快適
〔8:15〕

〔8:56〕

〔9:02〕

右岸から高巻



3 名 直登にトライ〔9:10〕

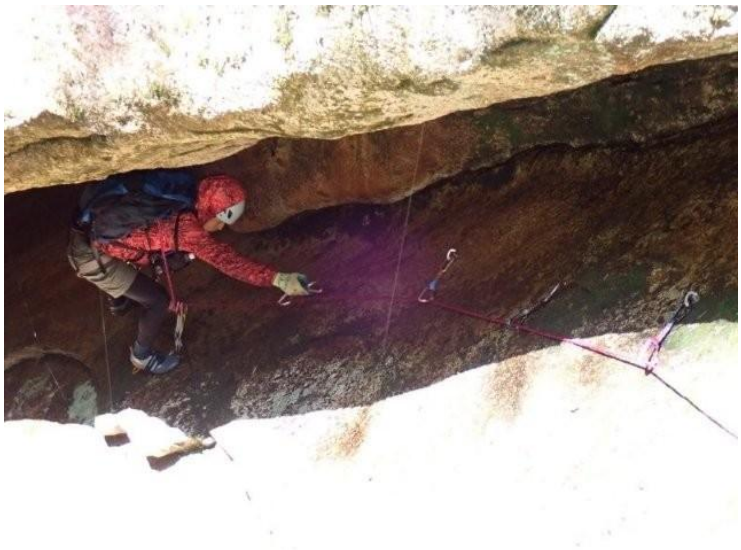
右岸から高巻後のスラブ コケで滑りやすいため念のためザイルを出す〔9:16〕

トップがコケをたわしで落としながらの登攀

この先 スラブをトラバース〔9:46〕

スラブを上がり込んでからのトラバース

ボルト連打されているがコケで滑る A0 で進む



トラバースの抜け口

スラブを登った後、岩の下部のボルトが連打されたトラバースルートは、沢登では珍しいルート取りで、ルート開拓メンバーの充実感が想像できる。

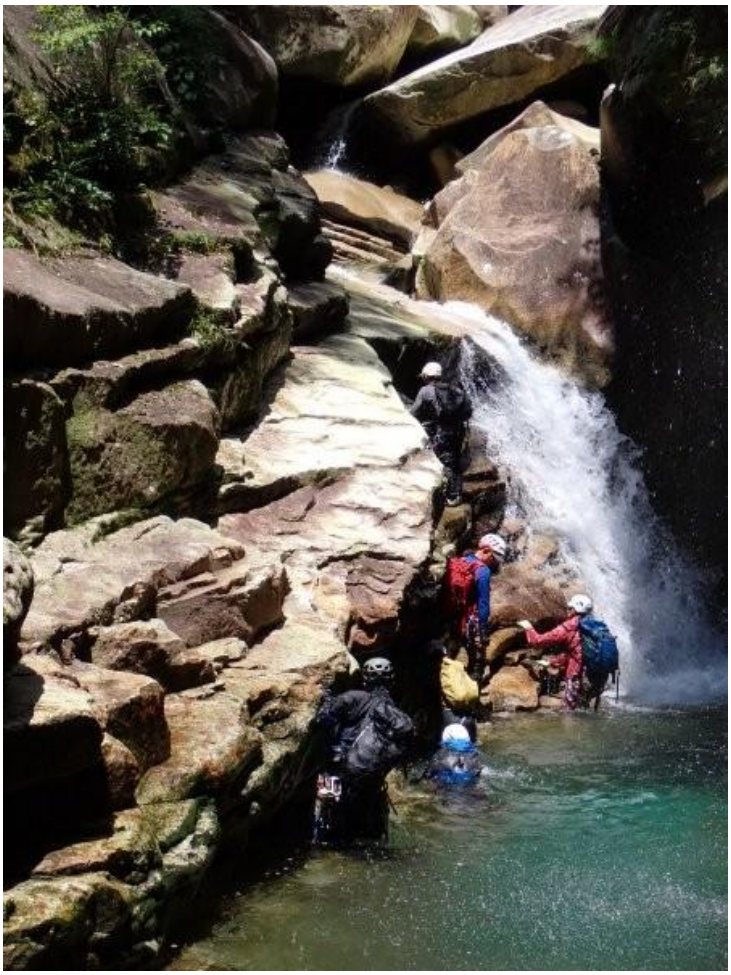
トラバースの抜け口で確保〔11:00〕

〔11:10〕

〔11:17〕

〔11:14〕

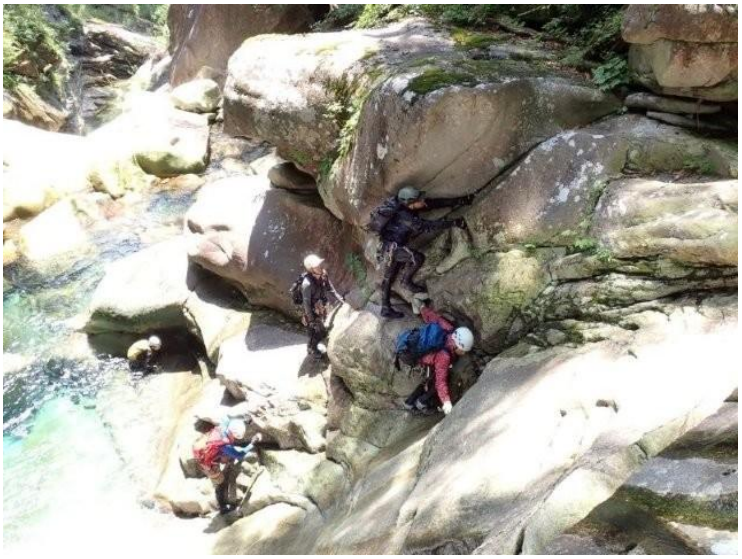
左岸から滝が流れ落ちるゴルジュ〔11:23〕



奥の抜け口（望遠）〔11:27〕

画像では、うまく捉えることが出来ないが光のかげんで幻想的で、沢登でしか出会うことのできない風景に、一同感動。

左の岩場の上部から撮影



〔11:38〕

〔11:42〕

〔12:24〕

〔12:32〕

休憩〔12:30～13:00〕

休憩した隅の水たまりいたイモリ

① 3 名この先のゴルジュへ 4 名は左岸を高巻〔13:18〕

へつり〔土橋さん撮影〕

カムと草付きにプロテクションを取ってトラバース〔土橋さん撮影〕

〔土橋さん撮影〕

この上で高巻組と合流
（奥に林道のガードレール
が見える）
〔土橋さん撮影〕

左岸を大きく高巻いて河川に下降〔13:41〕

林道のガードレールが 沢登終了点の印となる

この釜では、
水量の勢いが強く
ぐるぐる回転して
楽しい

沢登終了後
思い思いにエンジョイ

最後は、後方の林道に上がり込む

水遊び後 林道に向かうメンバー、鹿納谷を望む〔14:32〕

林道より 写真の右側の尾根筋を下山〔14:50〕

下山道に設置されたハシゴ〔14:57〕

下山道途中の祠と石灯籠〔15:03〕

下山道より綱の瀬川に到着〔15:25〕

綱の瀬川を下る〔15:29〕

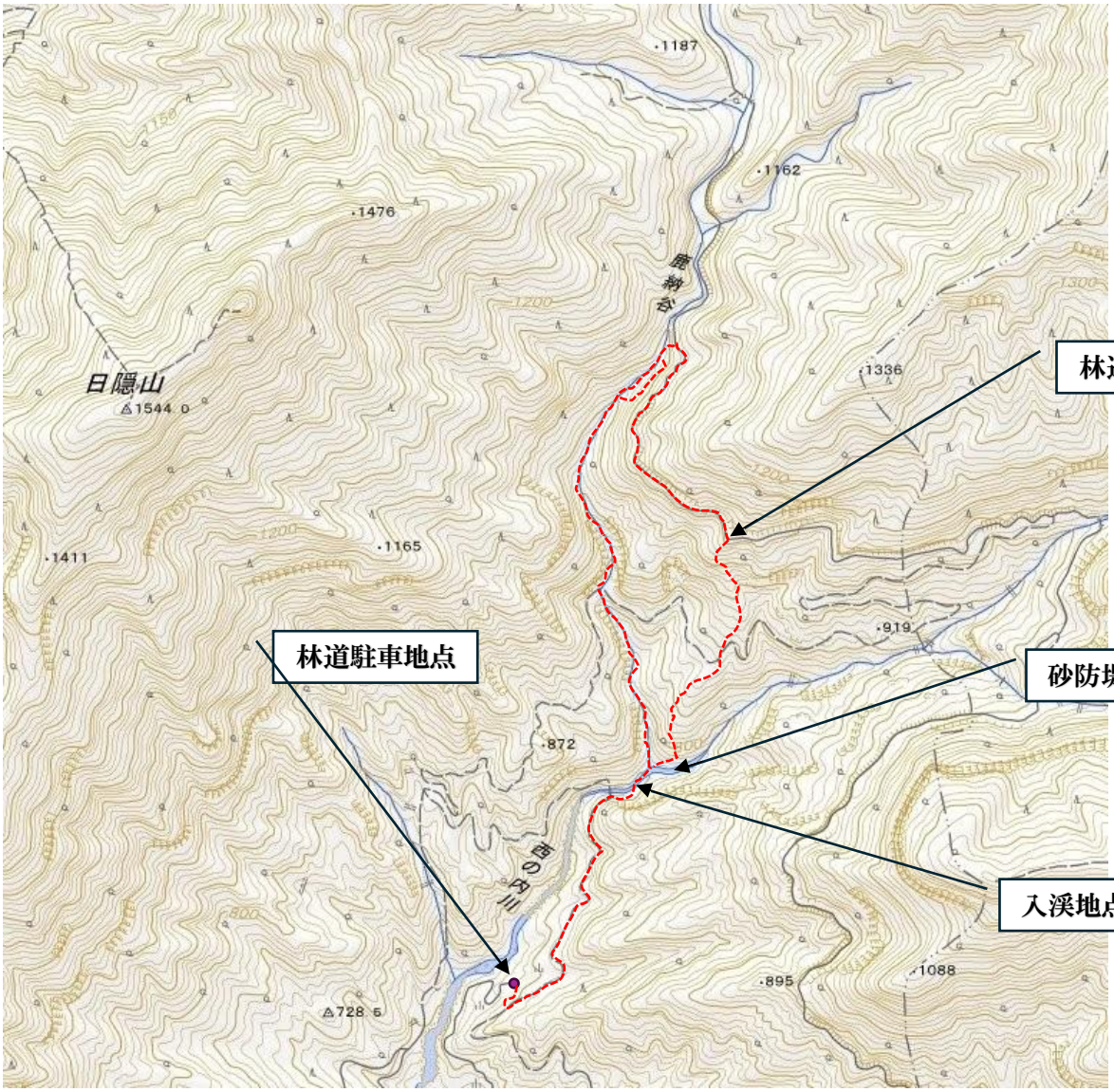
林道駐車地点〔15:49〕
皆さんお疲れさまでした

最後のゴルジュは、他の山行のログで右岸を高巻していたが、我々4名は左岸を高巻し、残る3名はそのまま ①を進んで終了点付近で合流。

① より先のゴルジュは、我々4 名は左岸を高巻したため行っていないが話によると、へつりの箇所でザイルを出して別に一か所ハーケンが打ってあったとのことで、ぬめりがありやや滑りやすかったがさほど難しくもなかったとのことであった。

鉾岳の北西・大崩の西に位置して、同じ感じの花崗岩質で明るく変化に富んでたいへん美しい沢で、山が深い割には下山も比較的容易で、九州の沢登コースとしてもやや登攀技術は要するものの上位クラスの好ルートであると感じた。

下山時、行動時間が長かったこともあり私は漢方 68 番にお世話になり、年を痛感するばかりである。



地理院地図（電子国土 WEB）より

北九州山岳同好会「嵐」

Reported by S.Okamura　　*Photo presented by M.Dobashi & S.Okamura*